

平成 29 年度 洗足こども短期大学 高津区役所保育所等・地域連携共催

保育実技研修会が開催されました。

去る 6 月 1 日（木）に、本学シルバーマウンテンにおいて、保育実技研修会「乳幼児の発達に即した楽器遊び～子どもが楽器と友達になるための理論と実践 part2～」が開催されました。この研修会は、昨年 11 月に高津区役所主催で行われた同テーマの保育実技研修会が好評を得て、さらに充実した内容を加えたバージョン 2 として開催されたものです。当日は、保育施設の勤務時間に合わせた開会であり、保育者、高津区役所担当者、本学の卒業生・在校生・教員を合わせ、総勢 151 名が集う研修会となりました。

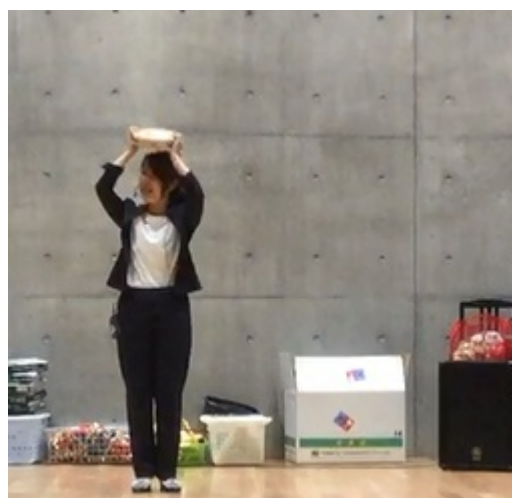
講師は、本学の教授で神奈川県保育士養成施設協会主催の「保育士を志す学生の集い」において「日本の歌・世界の歌」を演じるなど、声楽と音楽を通して川崎市や高津区との地域連携に取り組んでいる秋山徹先生と、日本ジャック＝ダルクローズ協会会員、ダルクローズ・リトミックの国際免許資格を持ち、乳幼児のリトミックや親子リトミックなど音と楽器と子どもとが友達になる講演を開いている谷上公子先生でした。

本学幼児教育保育科 落合俊文学科長より本学と高津区との地域連携についての挨拶の後、秋山先生から、「楽器の基礎知識と子どもにとっての楽器遊び」として、普段保育現場で活用している楽器の正しい持ち方や鳴らし方、新しい楽器の紹介などについて実演を交えての講義がありました。「タンバリンの穴は何のためにあるのか」、「鈴の持ち手の色はなぜ違うのか」、「教育用カスタネットの正式名称は？」、など、参加者が「へえ～」と感心するような楽器の知識もあり、普段何気なく触れている楽器にも違う視点での興味が湧く内容でした。新しい楽器として紹介された「ドレミパイプ」を使って参加者による「ドレミの歌」の合奏も盛り上がりしました。



谷上先生からは、幼児向けのリズム遊びとしての「リズム指導のヒント・合奏に活用しやすいCDの紹介」について、実際に参加者が動いて音楽を感じる体験型の講義がありました。シルバーマウンテンに常設されているスタインウェイのフルコンサートグランドピアノの音色に乗せて、4拍子と3拍子のリズムを打ち分けたり、電車になってピアノの速さで動くことにより、子ども達を感じる「拍」や「テンポ」の違いを体験したりしました。また、CD「シンコペイテット・クロック」を使い、時計の針をイメージした振り付けで動いたり、子ども達がリズムを感じやすい体の動かし方や合奏導入としての楽器の鳴らし方を体感したり...。「リズム打ち」では、どこに休符が入ると子ども達がやりやすいのか、また時には休符がストレスに感じるという発見もありました。

参加された方々が、徐々に音楽に反応して音楽感覚が入っていき、活動を通して会場に一体感が生まれ、仕事おわりにもかかわらず笑顔になられていくのが印象的でした。



秋山先生による子どもの音域のお話を聞いたり、保育者のための発声練習を行ったりした後、参加者全員で「さんぽ」を大合唱。最後は秋山先生による 湯山 昭 作曲『電話』が披露され、拍手喝采のなか、講演は終了となりました。

高津区役所保育所等・地域連携 福田和子課長より本日の研修会のまとめをしていただき閉会となりました。

今研修会がたくさんの参加者のみなさまの明日からの保育や学習に活かされることをお祈り申し上げます。